

第4期桂川町高齢者福祉計画の概要 実態調査と結果からみえる現状

【実態調査の目的】

第4期桂川町高齢者福祉計画の策定にあたり、町内にお住いの高齢者や要介護（支援）認定者等の介護や福祉に関する生活状況や意識といった実態を把握し、その結果を現状分析・計画策定の基礎資料とすることを目的に実態調査を実施しました。

調査票のご記入についてご協力いただき誠にありがとうございました。

【実態調査の実施概要】

- 調査実施時期
平成20年11月
- 調査対象者
一般高齢者 500人（無作為抽出）
在宅要介護（支援）認定者 200人（無作為抽出）

【実態調査の結果分析】

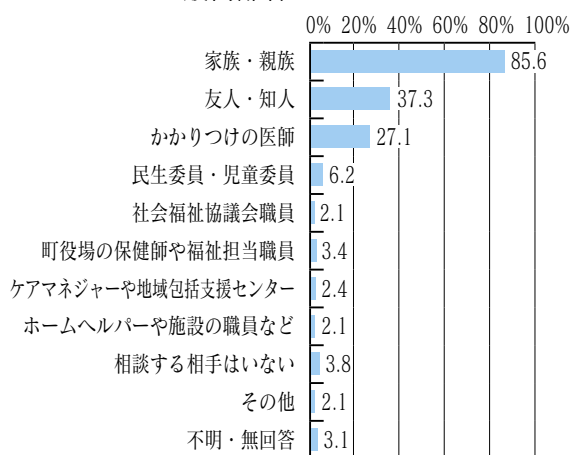
今回の調査では「日常生活の状況、健康の状況、介護や介護予防、高齢者福祉などについて」という4つを大きなテーマとして質問を設定しました。

これらの調査に対する回答からは、現在の桂川町における高齢者福祉のあり方、課題、そして今後の取り組みの参考となる結果が得られました。老いは誰にでもやってくるもの。しかし、ことわざにもある「老いてはますます壮なるべし」（後漢書）のように、いつまでも元気でいきいきとした生活ができるヒントとなる、実態調査結果の一部を紹介します。



◇日常生活の状況について【不安や悩みの相談先】◇

一般高齢者（複数回答）



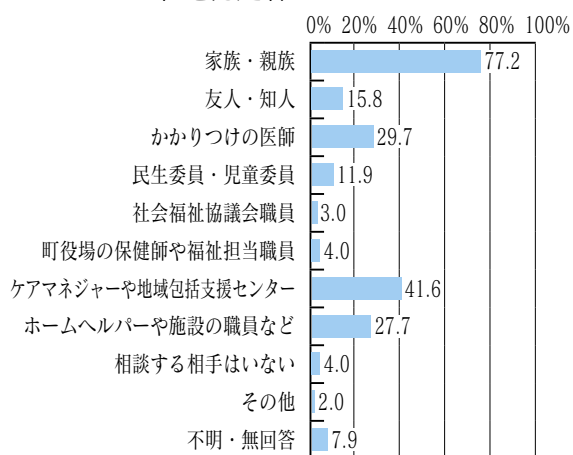
“不安や悩みの相談先”については、一般高齢者、在宅認定者ともに「家族・親族に相談する」という回答が多く寄せられました。

一般高齢者で、2番目に多かったのが「友人・知人」、次が「かかりつけの医師」の順になっています。

在宅認定者では、2番目に多いのが「ケアマネジャーや地域包括支援センター」、次が「かかりつけの医師」や「ホームヘルパーや施設の職員など」となっています。

これらの結果から、不安や悩みの相談先としては、

在宅認定者（複数回答）



日常生活で接する機会の多い人に相談することが多いと思われます。しかし、一般高齢者、在宅認定者ともに4%の方が「相談する相手はいない」とも回答しています。

また、社会福祉協議会や行政担当部署等へ相談するという回答は少ない結果となりました。

今後は、「心配ごと相談」窓口の周知に努め、地域の皆さんがより相談しやすい環境づくり、関係づくりを行っていくことが求められていると思われます。